

令和4年11月15日 火曜日
2022年 (第18337号) 日刊

夕刊デイリー

THE YUKAN DAILY

(昭和35年4月5日第3種郵便物認可)

野良猫のTNR 推進へ支援要望

高千穂猫ボランティアチームが町長に、高千穂市内の野良猫問題に取り組み高千穂猫ボランティアチーム(田原智恵子代表)はこのほど、町役場を訪れ、TNR(野良猫の避妊・去勢手術)推進に向けて支援を求め、要望書を甲斐市と町長へ提出した。

要望事項は、県北地区にどうぶつ基金協力病院が開設されるよう働きかけること▽抽獲した野良猫をどうぶつ基金協力病院、または県動物愛護センターへ運送体制を構築すること▽毎月のTNRを可能とすること▽TNRの必要性と存在を町民へ周知すること――。

田原代表(47)ほか、メンバーら8人が訪問。要望書を手渡した田原代表は「猫が好きな人、嫌いな人、双方が地域内で共存していくための要望。ぜひ協力をお願いしたい」と訴えた。

甲斐町長はTNRの必要性に一定の理解を示し「手術をすれば臭いや凶暴性も和らぐと聞いている。病院開設に向けた働き掛けや周知についてはやっていきたいし、検討を要する項目についてはしっかりと検討させていたたく」と答えた。

TNRは野良猫にも適応される法的義務で、手術後に耳先を花びら型にカットすることからサクラネコ活動とも言われる。町内では今年度、どうぶつ基金の支援により



甲斐町長(右)に要望書を手渡す田原代表